

性欲で勉強が
手につかなくなった
息子のために
母親である私が・・・
昼下がりの罪深い決意
後編

性欲で勉強が手につかなくなった
息子のために母親である私が・・・
昼下がりの罪深い決意 後編

こんな罪、伸二と二人で突き進めば何もないのと同じ。

「ンジュバァッ・・・ンジュブパァッ・・・ンアアアァンチュバチュブ・・・」

することは、何もかも脱ぎ捨て本能に立ち戻るだけ！！

本能が求める肉体交換に正直になるだけ！！

裸で動物のように色んな体位で絡み合い、快楽を交換し合う私たち。

「セックスウ・・・ンジュブブチュブブチュルル・・・母と子で・・・オチンポとオマンコ・・・んああああん、舐め合ってるうう！！・・・ああああんっ！！」

まるで“あなたのためのおっぱいよ”と主張しているようなブリンッ！と張りのある私の乳房に顔をうずめ、甘えた赤ん坊のようにチュウチュウと無心に立ち返り吸い付いてくる伸二。

もう何も望むことはありません。

時折遊ぶように乳首をチュルンッ！と舌で突き上げると、“ピクンッ”となります。いい年をしているのに恥ずかしいくらいピンク色の私のおっぱいの先端で、成長した愛する息子が舌を使って遊んでいるのです。

舌で遊んだ後はそして再びしゃぶりついてチュパチュパ。

母子共々、終わらない快樂に包まれます。

嬉しくて嬉しくて。

母乳をあげていた、伸二が〇児期の頃にもう一度タイムスリップさせてやったような心持ちでした。

「ンクチュブウ・・・ママア・・・チュブブチュパアッ・・・クチュルルルルツツ」

「んっ！！んっ！！んんんっっ！！あああああんっ！！あああああ！！」

伸二・・・。

可愛い伸二・・・。

赤ちゃんみたいな伸二・・・。

愛する大切な息子、伸二・・・。

あたしのお腹の中に戻っていらっしやい！！

私はおっぱいのおしゃぶりタイムの後、今度は伸二に心行くまま大量の愛液で溢れかえったオマンコを舐めさせてあげて・・・。

そして・・・。

股を開いて伸二のペニスを誘導しました。

“ママの膣内” という大人の世界へ。

「ズジュブブブブプププ・・・」

もう一度、彼の“命”である太くて長いペニスを、私のお腹に、子宮に戻してあげたのです。

「ズチュッ！！ズチュッ！！ズチュッ！！ズチュッ！！ズチュッ！！ズチュッ！！」

母子の肉体同士が激しくぶつかり合います。

「あああっ！！んあああっ！！んああっ！すごいよお！気持ち・・・・
良いよお！！」

長いペニスに膣膜が絡みつき、窮屈そうに伸二のペニスが入り込みます。ただ窮屈であればあるほどに、伸二は気持ちよさそうに目をつぶり、呼吸を荒げながら腰を振ります。

私の膣内で溢れかえる体液と、伸二の巨根の先っぽから噴射し続けるカウパー腺液が混ざり合い、大量のネバネバを生じさせます。そのネバネバの中で二つの生殖器が欠片の隙間もなく擦れ合いクチュクチュと音を立てながら結合し合います。

体験版はここまでです。

もし気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。